

ジオスペース館だより

★ 今月の星もよう ★

桜が咲き、春の光あふれる季節となりました。星空も冬の星座は西へと移り、南から東の空いっぱいには春の星座が広がっています。4月中旬の夜8時頃の星空を見てみましょう。《冬の大三角》は西に傾き、南の空高く昇ってきたのは、春の代表的な星座「しし座」です。「しし座」のすぐ南には暗い星々が長く連なる、全天で最大の星座「うみへび座」が横たわり、そして「しし座」の東には「おとめ座」、北には「おおぐま座」が並んでいます。「おとめ座」は全天で2位、「おおぐま座」は3位の、とても大きな星座です。「しし座」の尻尾の先で輝く2等星デネボラと、「おとめ座」の1等星スピカ、「うしかい座」の1等星アークトゥルスをつなぐ三角形を《春の大三角》といい、さらに、「おおぐま」の尻尾の先からアークトゥルスを通り、スピカまで伸ばしたカーブを《春の大曲線》といて、春の星座を探すよい目印となっています。



また、北の空高く昇っている「おおぐま座」の背中から尻尾の星の並びは、有名な《北斗七星》です。図のように《北斗七星》の一辺の長さを5倍伸ばすと、「こぐま座」の尻尾に当たる「北極星」が見つかります。「北極星」は北の方角を示す大切な星です。2等星ですが比較的よく目立つ星なので、ぜひ探して方角を確かめてみてください。

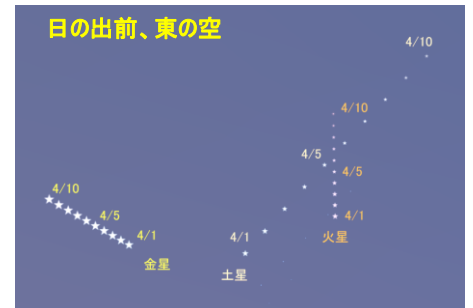
★ といかけぼし(樋掛け星)【星の和名のお話】

日本に伝えられてきた星の名前を「星の和名」といいます。和食とか和服などの「和」と同じです。今年度はそんな星の和名について紹介していきます。第1回は「といかけぼし」です。春の星座「しし座」の頭の部分、「? (ハテナマーク)」を裏返しにした形は目につきやすく、西洋ではこの形を草刈り鎌に見立てて「ししの大鎌」と呼ばれています。この「ししの大鎌」を日本では、岐阜県揖斐地方で伝えられてきた和名に、「といかけぼし」という名前があります。この形の星の並びを、雨樋を掛ける金具の形に見立てて「樋掛け星」と呼んだのです。雨樋は屋根を流れる雨水を集めて、地面や下水へ流すためのものですが、皆さんの家にも付いているでしょうか？ 樋掛け金具を探してみてください。



★ 火星と土星の接近に注目!

4月上旬は、明け方に火星と土星の接近が見られます。最も近づいて見えるのは4月5日の明け方で、東から南東の空の低い位置に、ほとんど同じ明るさの2つの惑星が並んでいます。土星は白っぽく、火星は赤みがかって見えるので、色に注目してみましょう。近くで金星が明るく輝いていますから、金星を目印にしてぜひ観察してみましょう。



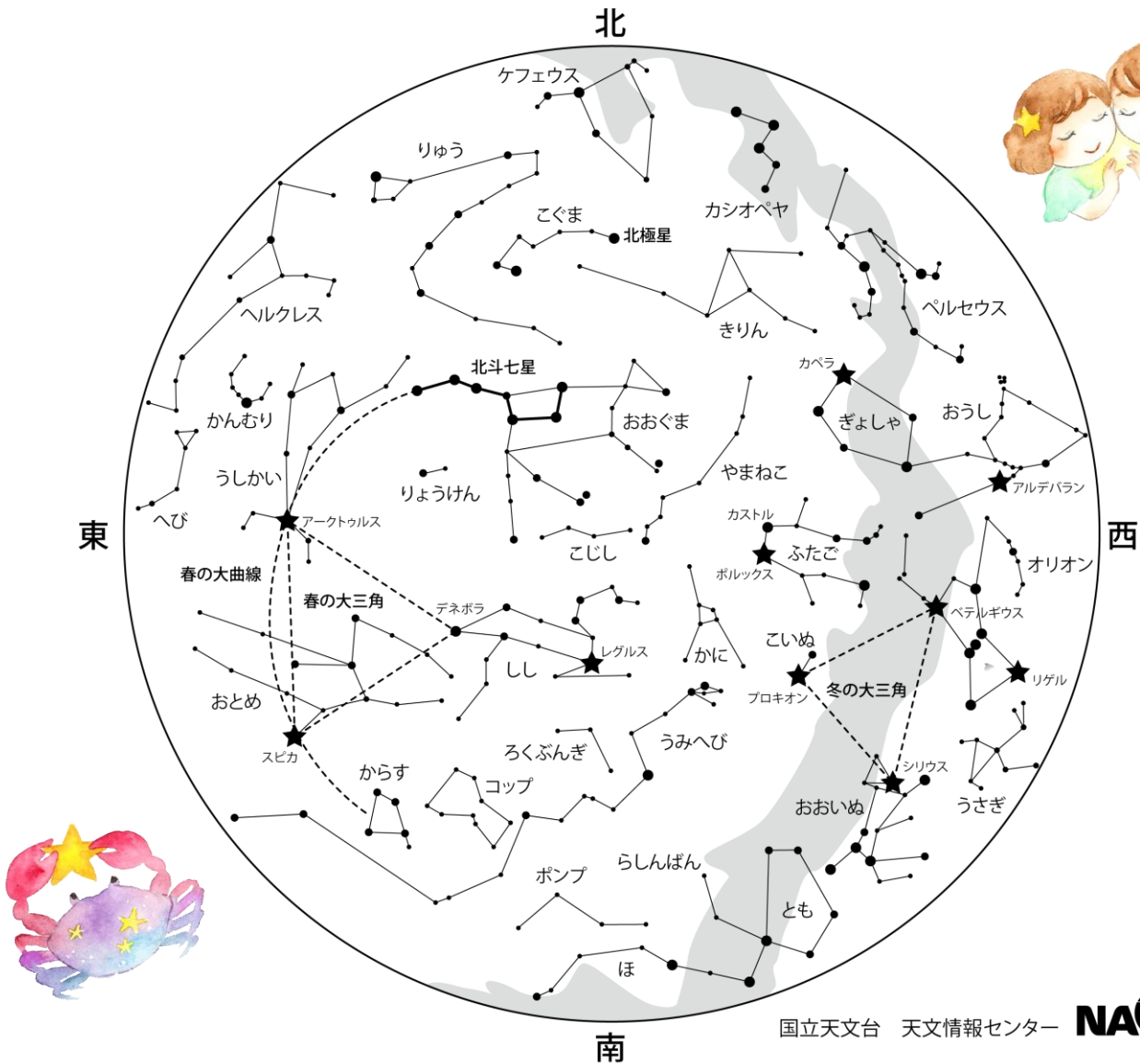
星図は、ステラナビゲーター11を使用して作成

★ 4月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 4/4(月)、11(月)、18(月)、20(水)、25(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

4月上旬午後9時頃の星空



国立天文台 天文情報センター **NACJ**

★ 4月上旬の主な天文現象

1日(金)	● 新月	13日(水)	しし座 ^{エータ} η星の食
5日(火)	せいでいめい かせい どせい だいせつきん 清明、火星と土星が大接近	15日(金)	おとめ座 ^{ガンマ} γ星(ポリマ)の食
9日(土)	● 上弦		

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 3/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇	4月 4日(月)	[見やすさ ◎]	19:35	北西	~	19:39	南南東
◇	4月 5日(火)	[見やすさ ◎]	18:47	北西	~	18:53	東南東
◇	4月 6日(水)	[見やすさ ○]	19:36	西北西	~	19:40	南
◇	4月 7日(木)	[見やすさ ◎]	18:47	西北西	~	18:54	南南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。